

## 「アゲハの前蛹」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

生物はいろいろな方法で成長するが、およそ蝶や蛾ほど、大きく変化をしながら成長する生物は、身近なものでは他にないだろう。アゲハの成長の観察は、その劇的な変化を実感することが大切だ。一番感動的なのは、蛹(サナギ)ら蝶になる「羽化」の一瞬である。これは「サナギホルダー」を作ることによって、その一瞬を観察できるチャンスが増える。

もう一つは、終齢幼虫が蛹になる「蛹化(ようか)」の一瞬である。アゲハの場合、この変化がなかなか面白く、子どもたちはその変化を驚きをもって観察することになる。その場面は、およそ放っておいても、毎年訪れるものだ。今年もある休み時間のこと……

C:「先生、せんせい、センセイ、センセー!アゲハの幼虫がね、動かなくなって死んでる!」

T:「サナギになったんじゃない?」

C:「ちがう。サナギじゃない。幼虫のまま動かなくなってる。」

T:「では、見てみましょう。」



私は、その子どもの飼育ケースを覗いてみた。一瞬で10人ほどの「子どもだかり」が形成された。

「わ、何これ?幼虫っぽいけど、もうサナギ??」

「動かないじゃん。死んでるの?」

「結構かわいい!」

「サナギ・・・だよな?あ、やっぱ幼虫!」

「あ!動いた!死んでない、生きてる!」



これは「前蛹(ぜんよう)」と呼ばれる状態で、終齢幼虫がサナギになる前に、体を縮めてほとんど動かなくなり、蛹化の準備をしているのである。よく見ると、すでに体が糸で吊られているのがわかる。前蛹はほとんど動かないので、死んでいるようにも見えるし、すでにサナギになっているようにも見えるが、まだ終齢幼虫の延長である。この「緑のムーミン」は、このままサナギに変態するのではなく、もう一回脱皮をして、「正式に」サナギになるのだ。



虫カゴの底をよく見ると、3体のサナギのそばに、最後に脱皮した殻が残っていた。あの前蛹の体勢から、よく上手に脱皮できるものだと、感心してしまう。その一瞬も観察させたいものだ。